

◇2020年度の事業計画

〔50年事業〕

▽開館日記念イベント（5月17日）＝開館記念日は日曜日。前日の16日（土）を記念日とし、午前、午後の2回、来館者を書庫に案内。8室の書庫に収蔵されている80万冊の雑誌を紹介し、希望の雑誌を閲覧室で手に取って読んでもらう。入館料金無料も検討。（※コロナ感染拡大防止で中止）

▽思い出エピソード募集＝文庫利用や大宅壮一の思い出などのエピソード投稿を、ホームページなどで呼び掛ける。応募作は会報やホームページに掲載する。

▽大宅文庫会報の再刊（8月）＝これまでの文庫ニュースの体裁を全面改訂。

▽文庫フォーラム開催（9月、11月）＝9月と11月に2度開催。雑誌の楽しさや貴重な資料であることをアピールする。出版社との連携も検討。

▽大宅文庫サロン開設＝10月前後から文庫閲覧室を使い開設。マスコミ人を講師に“第2の大宅塾”的色彩のある集いを目指す。

▽収録雑誌目録の刊行＝台帳管理の雑誌所蔵目録をデータ化して、皓星社から刊行。現在データ入力を進めている。入力に時間がかかって、2021年度の可能性もある。

〔収益・増収策〕

▽noteの積極的活用＝「note」は、文章やムービー、画像などを簡単に記事にできるサイト。課金サービスのシステムを使い、少額寄付を募る。また検索エンジン対策を利用して、ネット検索で文庫が上位に来るように誘導する。

▽MIE運動との連携＝MIEは、教育現場で雑誌文化を学ばせる運動。日本出版学会会長の植村八潮氏（専修大教授）が2019年に提言し、研究部会ができています。文庫が研究部会に参加するなどして活動にかかわり、実践学校への協力を進めていく。

▽「雑誌記事人物索引」2019年版の刊行＝今年度は2019年と2009年、2008年の3年分を刊行する。2018年2月から始まった人物索引本は、これまでに2018年～2010年の9年分を刊行し、各地の図書館や大学などで活用されている。

▽Web 教育機関版・公立図書館版の普及拡大＝今年度の契約は、教育版 127 機関（うち海外 15）、図書館版 25 館。図書館や大学に出入りしている紀伊國屋書店などの業者に委託して、Web 導入の図書館や教育機関の拡大を図る。

▽認知症治療への回想法活用＝回想法は、高齢者が昔の記憶で脳の活性化を図る治療法。文庫所蔵の古い雑誌には、当時の写真、広告などが掲載され、記憶を呼び出す素材がふんだんにある。認知症予防活動を推進する専門家を招いて、文庫近隣のお年寄りを対象に健康講座を開き、収蔵雑誌の活用を広げていく。

▽丸ごと閲覧コーナー＝2階閲覧室の一角に「丸ごと閲覧コーナー」を設置する。「機関車」「車」「洪水」「地震」「噴火」「オリンピック」「ワールドカップ」「メジャーリーグ」「女優」「アイドル」など、様々なテーマごとの雑誌を配置し、入館者に自由に閲覧させる。1テーマ2週間程度で変えてシリーズ化する。

【PR強化】

▽世田谷区との連携＝区のホームページでの紹介や助成を要請。区民入館料割引（半額）の導入、区民参加の「回想法の集い」開催。

▽文化施設にパンフ＝文庫のパンフレットを常備してくれる施設を広げる。現在、学士会館（神田錦町）や世田谷文学館などに置いてもらっている。

▽資料提供クレジット＝文庫資料や施設使用する際は、「大宅壮一文庫提供」の明示を、願います。

▽twitter の活用＝文庫からのお知らせ事項などを発信する。

▽広報窓口を一本化＝担当職員を決める。